

百人一首を書きましよう。

白露に風の吹きしく秋の野は

つらぬきとめぬ玉ぞ散りける

【現代語訳】
白露しらつゆに風がしきりに吹きつ
ける秋の野は、まるで緒で
つなぎとめていない玉が散
り乱れているようだ。

文屋朝康

忘らるる身をば思はず誓ひてし

人の命の惜しくもあるかな

【現代語訳】
貴方に忘れられる私のつら
さは何とも思いません。
ただ、神に誓った貴方の命が
神罰しんばつにより失われてしまうの
ではないかと、惜しく思われ
てなりません。

右近

浅茅生の小野の篠原忍ぶれど

あまりてなどか人の恋しき

【現代語訳】
浅茅あさしの生えた小野の篠原、
その「しの」のように貴方へ
の思いを忍びこらえているけ
れど、忍びきれない。どうし
てこんなに恋しいのだろう。

参議等

忍ぶれど色に出でにけりわが恋は

ものや思ふと人の問ふまで

【現代語訳】
忍びこらえていたけれど、
とうとうその素振りそぶに出でし
まった。何か物思いをしてい
るのですかと人が尋ねる程
に。

平兼盛